

日本-OECD特殊教育ワークショップ

平成17年3月2日から4日にかけて、文部科学省、OECD及び国立特殊教育総合研究所主催による国際ワークショップが開催されました。テーマは、「OECD諸国における障害のある児童生徒の教育に関する日本-OECD国際ワークショップ」です。参加国はOECD諸国からは、11カ国（アメリカ、カナダ、英国、イタリア、フランス、フィンランド、ノルウェー、ルクセンブルク、スウェーデン、オーストラリア、韓国）、17名の専門家が、日本側からは文部科学省職員、国立特殊教育総合研究所職員が参加しました。

横浜シンポジアの会議場を中心に、学校訪問を含み、日本の特別支援教育に関するプレゼンテーション、各国の障害のある子どもの教育状況に関するプレゼンテーション、総括討議等が行われました。

ワークショップ日程の詳細は以下のとおりです。



3月2日(水)

- 午後
1. 開会式
 2. 日本の教育制度について（文部科学省:特殊教育企画官 高口 努氏）
 3. 障害のある生徒に対する日本の取り組み ー全ての人のための共生社会の実現に向けた教育の現状と、今後の課題（重度・重複障害に重点を当てて）ー（特殊研:総合研究官 笹本 健）
 4. 重度・重複障害の生徒のための教育における実践報告（特殊研:総括主任研究官 石川政孝）
 5. 討議（テーマ2,3,4をふりかえって）
 6. 通常の学校および学級における障害のある生徒のための教育について ーOECD諸国からの検証ー（OECD事務局:ピーター・エバンス氏）
 7. カナダの政策:重複認知障害の生徒のための教育及び社会参加 ー保護者の観点からー（カナダダイアン・リッチラー氏）
 8. 障害のある生徒のための教育の分野における世界銀行の活動（世界銀行:ダニエル・モント氏）

3月3日(木)

- 午前 9. 学校訪問（横浜市立東俣野養護学校）
午後 10. 学校訪問（横浜市立八景小学校）

3月4日(金)

- 午前
11. 学校見学をふりかえってーフィードバックと討議ー
 12. 英国の政策:教育及び社会の分野における重度学習障害（盲ろう、重度認知障害等）のある生徒について（英国:ジル・ポーター氏）
 13. アメリカ合衆国の政策:重複障害の生徒（盲ろう、重複認知障害等）の教育及び共生社会に向けた方策（米国:デボラ・グリーンソン氏）
 14. 重度障害のある生徒について:教育分野での共生に向けたモデル（米国:バーバラ・リロイ氏）
- 午後
15. イタリアの統合サービスのネットワーク教育及び社会の分野における重度学習障害のある生徒について（イタリア:パオラ・ヴァルテリーニ氏）
 16. フランスの政策:教育及び社会の分野における重度学習障害の生徒たちー現在の状況と動向ー（フランス:セルジュ・エバーソルド氏）
 17. ノルウェーの政策:教育及び社会の分野における重度学習障害（盲ろう等）の生徒たちー教員養成の観点からー（ノルウェー:アイナ・アスク氏）
 18. 総括討議:参加国の国々との情報交換
 19. 閉会式

OECD/SENDDD 会合に出席して

2005年1月17・18日に、OECDの特殊教育の各国代表者会合が開催されました。

今回の会合は、2004年4月にパリで行われた会合のあと収集された各国からのデータについての検討が主な目的でした。日本からは、筆者である新井（企画部）と大崎（企画部）とイギリス出張から合流した徳永（企画部）の3名が出席しました。日本からの専門家出席はパリにつづいて2度目となります。開催地はベルギーの首都ブリュッセルで、会合は王宮の近くにあるホテルエレナ（以前は住居として使用されていたが現在は会議用の公館）で行われました。2日間にわたって各国の2003年の特殊教育に関するデータについて共通の指標について協議がすすめられました。出席者は、ドイツ、ベルギー、ハンガリー、イタリア、オーストリア、チェコ、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、アメリカ、カナダ等のEU諸国と主要先進国です。こうした国々と情報交換が効率的に行えるのもこの会合の魅力です。今回の会合は、現在日本でも課題となっているLDやADHD、高機能自閉症の各国の英文表記上の問題やそうした障害をSENDDDの分類にあてはめて、各国の対応の比較をことなども話し合われました。また各国の状況の報告もおこなわれました。障害のある子ども達の教育については我が国と共通する課題を抱えている国も少なくなく、有意義な情報交換が行われました。